□には、リンクがあります。※は、WAMNETの事業者情報にリンクします。

事業所名　ゆうあい　グループホーム　※

日付　平成18年11月7日
特定非営利活動法人
評価機関名　ライフサポート

評価調査員　在宅介護経験　15年
評価調査員　老人保健施設介護実務経験6年、
居宅支援事業所介護支援専門員経験6年

自主評価結果を見る　（まだリンク先はありません）

評価項目の内容を見る

事業者のコメントを見る（改善状況のコメントがあります！）※

外部評価の結果

講評

全体を通して（特に良いと思われる点など）

「昼は手打ちうどん！！」と利用者の献立で、朝から利用者の足でしっかり腰の強いうどん生地を伸ばしている。「太いうどんがおいしいぞ」と言いながら、利用者が下知している。「これ位でいいですか」「そうだな」と切りながら、「伸ばして下さいますか」と職員と利用者のコンビで生うどんができていく。「人間はな、算術と忍術でやらにゃいかんよ」と言った利用者に「ほう！！？」と言いながら手は進んでいく。（何事にも頭と身体を使って考えた仕事をしなければ駄目だよと言われたのでしょう）「もう湯は沸いとるか？」「はい。沸いてますよ。ゆでていただけますか」利用者の主導で手打ちうどんが出来上がっていく。一方で、別のテーブルで昨夜から仕込んだ油あげに具ごはんを詰めている利用者もいる。その手際の良さに「上手ですね。よく作っておられたんですね」と声をかけると「そう。昔は何かあると稲荷ずしもよく作っていたからな」と見る見るうちに大皿に並んでいく。男性利用者に「手打ちうどん皆で決めたんですか」「うん、そうだ。いつも皆で相談して決めるんだよ」とテーブルに座って、女性利用者と職員の働きぶりを見つめていた。

このグループホームには、利用者で『住民会』をつくっていて、男性が会長、女性から副会長が出て、いつも自ら生活改善を話し合い、利用者の希望や意見を出している。食事の献立やおやつの希望も出す。金曜日はお酒の日、新鮮な魚でおさしみ（夏は除く）も決めたそうだ。地域の老人クラブに参加、旅行にも行く。運営推進協議会にも利用者代表で参加している。

うどんとおいなりさんの昼食は、あっちこっちから会話が進み賑やか。実に『大世帯の家と家族』のひと時を見せてもらった。この紙面では、とても書き尽くせない位、伝えたい事の多いグループホームだった。

特に改善の余地があると思われる点　　次のような提案をした

① 一人ひとりの「今」を大切に、利用者の心の情景が後に残る記録をしておくと、本人や家族にとって素晴らしい思い出を残すことができると思う。

② 地域のグループホーム同士の交流も始まっているが、地域の人々にも医療や介護の専門職として認知症の理解のための情報を知らせてもらうと有難い。

Ⅰ 運営理念

番号	項目	できている	要改善
1	理念の具体化、実現及び共有	○	

記述項目　グループホームとしてめざしているものは何か

職員は理念をしっかり理解し、それを方針と目標に具体化している。その年度の計画を定め共有している。特に日常の目標として、「食べる楽しみ」を重要視して、食べることはその人の生きる力の源であり、利用者が楽しく生活して、一人ひとりが自分らしく生きている姿を見て、このグループホームの居心地の良さが伝わってくる。そして職員は、諸記録や自主評価等で見ると大変頑張っているが、実際に行動している姿には現れないところが良い。そして家族もグループホームのパートナーとして一緒に生活して、利用者を支えている。これが理想とするグループホームの姿であると感じた。

Ⅱ生活空間づくり

番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間作り	○	
3	入居者一人ひとりに合わせた居室の空間づくり	○	
4	建物の外回りや空間の活用	○	
5	場所間違い等の防止策	○	

記述項目　入居者が落ち着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か

食堂、畳の間、テレビの間と団欒の空間が続き、居室がゆるやかなカーブで並び、屋外にあるウッドデッキとスロープが大きな菜園につながっている共用空間は、利用者に無意識の内に心の豊かさを与え、相互の助け合いをして生活していこうとする力を汲み取っているのだろうと思う。そして利用者が全部の空間を上手く利用していることに寒心する。

居室は、フローリングと畳の部屋があり、トイレも備え付けてあり、十分に寛げる空間で、家族も利用者と一緒に2～3泊して過ごして帰り、家族としての絆を築いている。掃き出し窓の外に広い簀子があり、庭に広がっている。庭に鉢やプランタンを置いて自分の庭を造っている人もいる。自分の育てたサボテンを持って来ている人もいる。

広い菜園からは、季節の野菜が収穫でき、食卓を賑わせている。草取りをしたり、苗を植えて、自然に接する事が出来、借景と共に四季を感じ取って生活をしている。

Ⅲケアサービス

番号		できている	要改善
6	介護計画への入居者・家族の意見の反映	○	
7	個別の記録	○	
8	確実な申し送り・情報伝達	○	
9	チームケアのための会議	○	
10	入居者一人ひとりの尊重	○	
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ	○	
12	入居者のペースの尊重	○	
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援	○	
14	一人でできることへの配慮	○	
15	入居者一人ひとりにあわせた調理方法・盛り付けの工夫	○	
16	食事を楽しむことのできる支援	○	

Ⅲ ケアサービス（つづき）

番号	項目	できている	要改善
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援	○	
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮	○	
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせた入浴支援	○	
20	プライドを大切にした整容の支援	○	
21	安眠の支援	○	
22	金銭管理と買い物の支援	○	
23	痴呆の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保	○	
24	身体機能の維持	○	
25	トラブルへの対応	○	
26	口腔内の清潔保持	○	
27	身体状態の変化や異常の早期発見・対応	○	
28	服薬の支援	○	
29	ホームに閉じこもらない生活の支援	○	
30	家族の訪問支援	○	

記述項目　一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か

手打ちうどんを皆で作って「こりゃうまい。上出来！上出来！」と賑やかに言っている中で、利用者からはこんな言葉も聞き、認知症の人の辛さを感じる。

「今は、ここで手伝っているんですが、一つひとつ忘れたり、出来なくなることが不安です。悲しいんです」「主人が亡くなり、一人ぼっちになって、この寂しさを話す人が誰もいない。どうしたらいいか」「皆良くしてくれて有難いが、家に帰ってしなければならないことが、もうこんな体になって十分な事が出来んようになった。それも仕方がない」こんな人は見たたことない。人間が一番怖いで」等を聞くと答えようがない位辛い。アルバムを見て「こんな私はどうなるのでしょうか」手を取って一緒に歩く時「母を思い出すなあ。こんなにして歩いてもらって」こんな言葉をしっかり受け止めて、一人ひとりの心の中を思い、利用者の一人ひとりを大切にケアしている職員の皆さんである。そして利用者は、それぞれの人が生きてきた足跡からくる自信と歓びを感じ、利用者同士助け合って生活している姿を見せてもらった。

Ⅳ 運営体制

番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映	○	
32	家族の意見や要望を引き出す働きかけ	○	
33	家族への日常の様子に関する情報提供	○	
34	地域との連携と交流促進	○	
35	ホーム機能の地域への還元	○	

記述項目　サービスの質の向上に向け、日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か。

サービスの向上に向けて、管理者・職員は勿論、利用者・家族も加わって全体で取り組んでいる。「毎日がヒヤリです」と管理者は言う。開設して1年半、地域や皆さんの力を頂き、利用者が、我が家として受け入れられるよう、自分の思い、不安等を共に受け入れてもらえるよう、お互いが寄り添って努力している。

管理者は、地域とのつながりを広げるよう、真庭市のグループホームと連携をとり、交流して、お互いにケアの質の向上が計れるようグループホームの連携体制を呼びかけた。これから勉強会の花が咲くであろう。運営推進協議会の発展的取り組みに期待する。